



Viet Nam

学校名：船橋市立船橋高等学校

氏名：多胡 香穂里

[担当教科：国語]

- 実践教科等：国語総合
- 時間数：9 時間
- 対象生徒：1 年 E 組(普通科)
- 対象人数：41 人

1 単元名

古典 古文 随筆 「徒然草」 公世の二位のせうとに

2 単元の目標

ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度(国立教育政策研究所が例として示したもの)

- ・『徒然草』の読解を通して日本人が古来より持っている無常観を知り、その考え方が現代の私たちにも通ずるものであることを理解する。【6 つながりを尊重する態度】
- ・ベトナムにおける古典教育の現状と、文学と生活とのかかわり、文化保全に対する取り組みを知る。日本の古典教育や文学、文化とのかかわり方を比較することで、その特徴を理解する。【1 批判的に考える力】
- ・現在学んでいる古典作品を、国際理解教育の視点で捉え直したとき、古典を学習することが文化継承につながりことを知り、積極的に古典を学ぶ意識を醸成する。【7 進んで参加する態度】

3 資質・能力育成に向けた授業づくりの視点(国立教育政策研究所・2014)

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 意味のある問いや課題で学びの文脈を造る | 2 子供の多様な考えを引き出す |
| 3 考えを深めるために対話のある活動を導入する | 4 考えるための教材を見極めて提供する |
| 5 すべ・手立ては活動に埋め込むなど工夫する | 6 子供が学び方を振り返り自覚する機会を提供する |
| 7 互いの考えを認め合い学び合う文化を創る | |

4 単元の指導について

(1)教材観

本教材は鎌倉時代の作であり、平安時代の文法と比較しても読みやすく、随筆作品であることから生徒が理解しやすいものであると考えられる。特に序文は、中学校の古典でも取り上げられているものであり、暗唱できる生徒もいる。兼好法師の述べる無常観や、様々なものに対する批判精神は、日本人が古くからなじみのあるものであり、国際化社会である現代を生きる生徒たちにとっても、重要な考え方である。

今回は、授業実施者が JICA の教師海外研修で得た経験を基に、ベトナムと日本の古典教育の比較を実施する。同じ中国語(漢語・漢字)由来のベトナム語と日本語だが、両者のたどった歴史は大きく異なっている。ベトナム語の歴史と、ベトナムでの古典教育について知ること、現在の日本語と、日本の古典教育の特徴について、生徒の理解を促す。以上のことを踏まえ、「なぜ古典を学ぶのか」という問いを生徒に投げかけ、主体的に古典を学ぶ姿勢を身につけさせることを、本授業の目的とする。

(2)児童生徒観及び指導観

本校は普通科・商業科・体育科の 3 科を有する。今回の授業対象である普通科について言及する。

今年度より学区拡大に伴い、他市からの受験が可能となった。「国際教養コース」では、英語の単位数を増やし、オーストラリアへの語学留学を行うことで、国際社会に活かせるより高度な能力を身につけられる環境を整えている。ALT も 3 名常駐しており、より手厚い英語授業が展開されている。

授業を実施したクラスには、「国際教養コース」の生徒を含まない 41 名が在籍している。主体的に授業に参加し、理解が進まない生徒にも積極的に教え合う雰囲気がある。コミュニケーションを取ることをいとわない生徒が多いため、グループでの活動を多く実施している。古典の文法事項については用言の活用が一通り終了し、助動詞の意味を辞書や文法書で確認しながら読み進められるレベルである。高校卒業後、留学や国際大会への出場を視野に入れている生徒もいるため、授業や LHR において国際理解教育に関する話を年度当初から頻繁に取り入れている。

5 評価規準

観点	関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	読むこと	書くこと	知識・理解
評価規準	・作品が書かれた時代背景を考慮に入れながら、作品を味わうことができる。 ・ベトナムと日本の違いについて関心を持つことができる。 ・ベトナムと日本の比較を通じて、古典を学ぶことについて自分なりの動機を持つことができる。	・作品のテーマや文法事項などについて、グループや全体で説明できる。説明を聞き、理解できる。 ・ベトナムと日本の言語や古典教育の違いについて、グループで話し合うことができる。	・歴史的仮名遣いや古語に注意し、作品の内容を把握できる。 ・ベトナム語で書かれた本を読み、その特徴を捉えることができる。	・板書や授業内容などをノートにまとめられる。 ・作品のテーマや、得た知識を基に自分の考えをまとめられる。 ・古典作品の書写を通じて日本文化を体験することができる。	・作品の書かれた時代に関する基礎的な知識を身につけている。既知事項を基に、文章を読解できる。 ・ベトナムに関する知識を基に、日本語や古典教育の特徴を理解する。
評価方法	全体での発言、グループ内での発言 ノートへの記入内容	全体での発言、グループ内での発言	全体での発言、グループ内での発言 ノートへの記入内容	ノート及びワークシートへの記入内容	ノート及びワークシートへの記入内容 小テストへの取り組み

6 単元の構成

時限	学習のねらい	授業内容
1	・日本の古典作品について知る。	・『徒然草』の作者である兼好法師の紹介を聞き、日本の三大随筆とその文学的意義を理解する。
2～5	・古典作品を正しく、深く読む知識を身につける。	・「公世の二位のせうとに」の現代語訳と品詞分解を行う。
6	・古典作品の読解を通じて、自国の文化や精神について理解を深める。	・兼好法師が『徒然草』の中で述べた精神が、現代の私たちにも通じるものであることを学ぶ。 ・兼好法師が「高名の木登り」を紹介し、古典の持つ、人間の普遍性を言及する効果について理解する。
7・8	・日本とベトナムの古典教育を比較することを通して、その特徴と文化保全の大切さを理解する。	・共に漢字文化圏であったが、漢字を残しつつ発展した日本と、文字を持たなかったため古典が存在しないベトナムの違いを把握する。 ・ベトナム少数民族の伝統文化保全のための活動と、支援団体 FIDR の取り組みについて理解を深める。
9	・自文化を体験する。	・古典作品の冒頭を書写する。 (清少納言『枕草子』、鴨長明『方丈記』、兼好法師『徒然草』、松尾芭蕉『奥の細道』の4つから、自分で一つ選択)

7 授業事例の紹介

小单元名【 ベトナムと日本の古典教育を比較して、その特徴を知ろう 】

(1) 指導案

(ア)実施日時 11月22日(水)第6限 及び 11月28日(月)第4限

(イ)実施会場 1年E組教室

(ウ)本時の目標

・日本とベトナムの古典教育を比較することを通して、その特徴と文化保全の大切さを理解する。

(エ)指導のポイント

古典の授業は、とすれば文法解釈(品詞分解)が中心であると、生徒に受け取られる危険性を持っている。私は常々、辞書や文法書を駆使して自ら訳出すること、またそれらが使えない場合でも推測して内容を把握することが大切であると生徒に伝えてきた。その理由の一つは、未知のものに出会ったとき、書物やインターネット等を使って調べ、既知の内容とつなぎ合ったり、周りの人たちと知識を共有し推測しながら理解していくプロセスを体験させたいからである。

そして、今回は別の側面から、日本の古典教育が文化継承の一つの形式であり、生徒が日本の古典を学ぶ動機づけにつなげることを理由として挙げる。日本で当たり前のように使われている日本語や、行われる古典教育は、世界的に見れば当たり前ではなかった。文字を長らく持たなかったベトナムでは、日本のような古典教育を実施できないが、ベトナムの人々にも愛する古典作品が存在していたこと、少数民族の文化を外部の協力を得ながら保全する活動に取り組んでいることを、今回の研修で知ることができた。その活動を現地の写真やインタビュー動画を交えて紹介しながら、生徒が自らの古典に対する姿勢を振り返る機会を作っていった。

(オ)本時の展開

① 11月22日(水) 実施

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
導入	・研修の紹介を行い、ベトナムの概要に触れる。【4】	・JICA海外教員研修の紹介をし、ベトナムについての知識を確認する。	グループ 全体	・パワーポイントや具体物を用いて、視覚的に捉えやすくする。	・他教科でのベトナムに関する知識や、紹介された資料などを基に、関心を持って話を聞けたか。(関心・意欲・態度)
展開 1	・現地の写真を基に、日本語とベトナム語の違いについて比較させる。【4】	・日本語と、ベトナム語で書かれたものを見て、使用されている文字を確認する。	全体	・現在使用する文字は異なるが、共に中国の影響を受けて発展してきたという共通点を説明する。	・両者を比較し、その特徴に気づくことができたか。(読むこと)
	・日本語表記について、生徒に話し合わせる。【2】	・「平家物語」の冒頭を、和漢混交文、ひらがなのみ、ローマ字の3種類で読み、その印象についてグループで話し合う。	グループ	・日本語の表記の特徴を実感させるよう配慮する。	・日本語の特徴について話し合い、自分の考えをまとめることができたか。(話すこと・聞くこと)

JICA 教師海外研修 授業実践報告書

	・ベトナムの学校での授業風景写真、用いられている教科書を提示する。【4】	・ベトナムの中学校、高校の国語の授業について知る。	全体	・古典は高1から行うが、漢文そのものを読むのではなく、アルファベット表記(クオックグー)で読んでいることを説明する。	・ベトナムと日本の古典教育を比較し、特徴や違いについて理解できたか。(関心・意欲・態度)(知識・理解)
	・ベトナムの古典教育を紹介し、日本と比較させる。【1】【3】【6】	・ベトナム語の表記が今日のものに至った理由を知る。日本語の持つ歴史と比較し、両者の違いについて理解を深める。	全体	・日本語も、同じ歴史をたどった可能性があることに気付かせる。	・ベトナムの歴史とベトナム語の関連について理解できたか。(知識・理解)
まとめ 1	・もし日本にも文字がなかったら、どのようなことが起こるか考えさせる。【1】	・文字が受け継がれないことによって、どのような問題が起こるかについてグループで話し合い、考察した結果をワークシートに記入する。	グループ 個人	・ベトナムに限らず、日本でも起こりうることにについて、考えを巡らせるよう促す。	・問題について、グループで積極的に発言、また相手の意見を聞くことができたか。(話すこと・聞くこと) ・グループでの話し合いを基に、自らの意見を書くことができたか。(書くこと)

② 11月28日(月) 実施

展開 2	・ベトナムの文学作品を紹介する。【4】	・ベトナムの国民的文学である「金雲翹」を取り上げ、その教育と人々の生活とのかかわりについて理解を深める。	全体	・地名や建物の名称、名付けにも関係していることを、具体例を挙げて説明する。「伊勢物語」を紹介し、日本も同様であることを伝える。	・ベトナムには人々の生活に根づく文学作品があること、日本にも同様のものが存在することを理解できたか。(知識・理解)
	・日本の高校生が古典を学ぶ意義について意見を出させる。【3】【6】	・ベトナムの高校の先生へのインタビュー動画を通じて、高校生が古典を学ぶ意義について考える。	全体 グループ 個人	・ここまでの学習を振り返り、古典を学ぶ意義についてプリントに記入させる。	・ベトナムと日本の比較を踏まえ、古典を学ぶ意義について考えを深められたか。(知識・理解)
	・ベトナムでの文化保全活動を紹介する。【4】	・FIDRによるベトナムの伝統文化保全活動について知る。	全体	・文化を残すために、現地の人と、外部の人(日本人)が協力している現状を伝える。	・ベトナムの文化保全活動を知り、文化を守ることの大切さを理解できたか。(知識・理解)

まとめ 2	・古典を学ぶことが文化保全につながることを伝え、その一環として古典作品の書写を実施する。【1】【5】	・自分たちの身の回りで、文化の継承や保全につながるものの例を挙げ、高校生の立場でできる活動について考える。	全体 個人	・国レベルの大きなものから、個人で行うことのできるものまで、自由に出させる。 ・文化継承の一例として書道を取り上げ、次回への導入にする。	・文化の保全や継承について、自分の立場で考えを持ち、書くことができたか。(知識・理解)(書くこと) ・ベトナムの事例を知った後で、自らの身の回りのことについて考えられたか。(関心・意欲・態度)
----------	--	---	----------	---	---



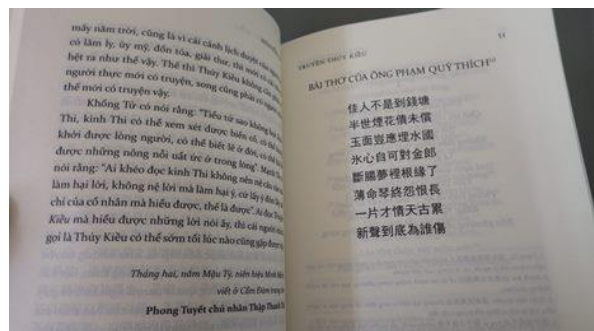
ベトナム語表記と漢字の砂絵



ベトナムでの国語の授業風景



日越の「金雲翹」

ベトナム語版「金雲翹」。漢詩の部分に漢字。
近年では、漢字表記も用いられるように。

(2) 授業の振り返り

今回の授業は「古典で国際理解教育を行いたい」「古典を学ぶ意義を考えてみたい」というところから出発したが、生徒にとって古典の授業と国際理解教育は結びつくのか、ということが常に不安としてあった。研修への参加が決まる以前から、現代文分野の授業にて日本と諸外国の比較を意識的に行っていたこともあり、大きな混乱もなく授業を進めることができた。コミュニケーションを取ることを好むクラスの雰囲気にも助けられ、「今まで当たり前のように思っていたことも、周りと比べると違いが見えてくる」という話が様々な場面で聞けた。授業後、教員間の意見交換では、現地に赴いたからこそ得られた素材を、ICTを活用することで生徒に効果的に提示できたこと、生徒間の積極的なコミュニケーションが見られたこと、今回の授業は「人はなぜ学ぶのか」という国語だけにとどまらない、人間の普遍的な問いへのアプローチであったということが、良い点として挙げられた。

授業を行う中で、古典教育の話と言語の話が明確に分けられておらず、授業を行った私自身が混乱してしまう場面があった。また、今回用いた素材は、あくまで私が得た一部の情報に過ぎない。具体的には、「ベトナムの高校生も古典が苦手。でも、自分たちの歴史を知ることは大切だし、楽しい」というインタビューの言葉があっても、なぜ苦手なのか、古典教育の必要性について子どもたちがどのように考えているのかについて、今回の素材だけで言及することはできなかった。そんな限られた中でも、生徒たちは様々なことを考え、ワークシートに書いてくれたが、それを授業時間内で発表させ、フィードバックを行うまでにたどり着けなかったことが反省点として残った。「なぜ古典を学ぶのか」という問いについて、これから出会う様々な人・ことから得たものを蓄積しながら、今後も生徒達と考えていきたいと思う。

(3) 使用教材

- ・パワーポイントで作成した「日本とベトナムの古典教育」スライド、写真(街の風景、食事、住居、学校の授業風景など)、FIDR の資料
- ・ベトナムで購入した本(ベトナムの国語教科書、日本語学習用の教科書、ベトナム語版「金雲翹」)

(4) 参考資料等

- ・『漢字圏の近代—ことばと国家』村田雄二郎／C・ラマール(編) 東大出版会 2005 年
- ・『金雲翹』阮攸 講談社 1975 年
- ・『世界の文字の書き方・書道 3 漢字文化圏の色々な書道』稲葉茂勝 彩流社 2015 年
- ・『地球の歩き方 ベトナム 2017』ダイヤモンド社 2017 年
- ・『東南アジア文学への招待』宇戸清治／川口健一 段々社 2001 年
- ・FIDR(公益財団法人 国際開発救援財団)ホームページ「国際協力援助事業 ベトナム」
http://www.fidr.or.jp/activity/cooperation_vietnam.html (2018 年 1 月 8 日 現在)

8 単元を通じた児童生徒の反応/変化

- ①ベトナムの古典教育について・・・ベトナムが、日本と同じく漢字を使っていたとは知らなかった。／自分たちの昔の文章がないのは残念だと思った。
- ②文字がないとどうなると思うか?・・・正確に伝えることができないのは困ると思う。／昔の人の経験から学ぶことも多いので、それが伝わらないのはもったいない。／日本は文字があるのが当たり前なので、なくなるなんて考えられない。
- ③これからの日本の古典教育について・・・日本の教育が当たり前じゃないことに驚いた。／そのままの文字で読めるのはすごいので、残ると良い。／意味だけ分かればいいので、古典の授業はなくなっていくと思う。困らないと思う。
- ④感想・・・古典を訳だけで読むのはつまらない。音楽や美術と同じで、そのものの良さがあると思う。／ベトナムの人がどんな授業を受けてるかなんて、考えたこともなかった。いろんな国に行ってみたい。
年度当初に、「なぜ古典を学ぶ必要があるか」という問いをしたとき、生徒たちは「先人の知恵から学ぶため」という解答をしていた。古典を学ぶことに一定の意義を見出しつつも、文法の難しさなどから勉強に苦しむ生徒も多い。授業を通して、自らの古典を学ぶ姿勢について振り返っていたようだった。

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

研修への応募の時は、「ベトナムでも古典教育が行われているだろうから、その現場を見てきたい」と考えていたのだが、調べていくうちに日本とはかなり状況が異なることが分かってきた。文献調査でベトナムには古典作品が存在しないこと、それでも古くから人々に親しまれる作品があることを知った。現地の研修では、文化保全の面で JICA や FIDR といった日本の団体が関わっていることが分かり、それらを軸として授業計画を行うことにした。私自身は、ベトナムに対して発展途上の国であるというイメージを持っていたが、実際には急速なスピードで発展を遂げており、ベトナムで働く人々のパワフルさからは日本の高校生が学ぶべき要素があるのではないかと感じた。そのことから、日本にとってベトナムは支援すべき存在としてだけではなく、国際社会において共に協力していく存在として語るよう留意した。

授業を通じて生徒たちは、比較を通して自分たちの特徴が見えてくること、当たり前だと思っていることは、実は当たり前ではないこと、ごく身近なところにも、自国の文化を担う術が存在することを理解していった。一方で、国語教育と国際理解教育が有する目的のずれに捉われたこと、生徒への質問設定の甘さ、フィードバックの欠如が課題として残った。今後は国語の教員として、自分が扱う教材を国際理解教育という視点で捉え直し、継続的に指導を行えるよう授業を計画していきたい。

10 教師海外研修に参加して

教育の役割は「子どもの成長に資すること」であり、国際理解教育で言えば「国際社会で活躍する人材を育成すること」であると私は考える。学校という、ある意味で社会とは断絶した空間の中で、国際理解を促進する授業を行うためには、実践者である教師が現地へ赴き、自分の目で見て考えたものを、自らの言葉で語るより他にない。私は国語の教師であり、自分で考えた範疇でしか語れない。しかし、この研修を通じて出会った先生方や JICA の方々、授業実践を見に来て下さった先生方と話すことによって、教科も校種も地域も越えて自分の考えを広げていくことが可能となった。この広がった世界の中で生徒たちが学び、今度は生徒自身がいろいろな世界に目を向けてくれることが、本研修で得られる一番の成果であり、そのために今後も研鑽を続けようと思う。

ベトナムと日本の古典教育 ワークシート

() 組 () 番 氏名 ()

①まずはじめに、あなたはなぜ古典を学ぶのですか？

②文字がなくなると、どんなことが起こると思いますか？

③これから日本の古典教育は、どうなっていくと思いますか？どうなってほしいですか？

④もう一度、あなたはなぜ古典を学ぶのですか？

生徒アンケートまとめ

ベトナムチーム 多胡香穂里（市立船橋高校）

【これからの日本の古典教育、どうなる？】

- ・続けてほしい。そのまま読めるのはすごいし、昔の文化を学んでみたい。
- ・昔の中国の人の言葉が新たに発見されたとき、読める人がいなくなると困るから続いていくと思う。
- ・過去を知って楽しむことが増えてくると思う。
- ・文化を大切にしようとして、古典を勉強すると思う。
- ・日本が清水寺や金閣などの伝統的な建築物を大切にする限り、続いていくと思う。
- ・自分で書いて伝えることがなくなるかも。
- ・知らなくても困らないし、いらなくなると思う。
- ・調べ尽くして、いつかなくなると思う。
- ・学生の学ぶ意欲は減ると思うけど、それでも文化を伝え続けるべきだと思う。
- ・みんなが学ぶ意味をわかっていないまま学習したら、意味がないものになると思う。
- ・また新しい文法が出てくるから、未来的には、今やっている文を学んで、今学んでいる古典は忘れられてしまうのではないか。
- ・いろいろな技術が発達しているからこのまま続かない気がする。
- ・学びたい人だけ学ぶことになっていきそう。
- ・意味がわかればいいと考えたら、ベトナムのように、現代文に直されていきそう。
- ・時間数が少なくなっていくそう。
- ・古典の勉強はあるが、なくても不自由なことはないと思うから、なくなると思う。
- ・続くと思う。ノートとかじゃなくて、タブレットとかになってるかも。
- ・ノートに自分で書くのではなく、iPadなどで訳してもらえるようになりそう。

【なぜ古典を学ぶのか】

- ・国の文化を受け継ぐため。今の日本を次の時代に伝承するため。
- ・過去を知るため。
- ・今とどう違うのか、共通性を知るため。
- ・昔と今の感じ方の違いや、同じようなことを思っていることを楽しむため。
- ・歴史や文化を知ることによって他国の人との交流につなげるため。
- ・温故知新！
- ・新しい文化をつくるため。
- ・自分たちの文化を見失わないため。
- ・先人たちが何千年にも渡って受け継いできた日本だけの文化を失わないため。
- ・古くからの日本の文化を大切に、忘れないため。
- ・他の文化を知る前に、自分たちの文化を知らないで恥をかくから。

- ・自分たちの歴史を学ぶのは楽しいから。楽しみながら知るのが大切。
- ・世界の様々な言語を照らし合わせて、いろいろな文学作品を学んでいくことで、人間としてふさわしい考え方を作るため。
- ・この先古典を学ばなくなり、どんどんアメリカや世界に染まっていったら、日本は日本ではなくなってしまう気がする。日本が日本であるためにも、古典や歴史は学ぶべき。
- ・次々と新しいものができて変わっていく現在だからこそ、昔からの、変わらない文化を学び、今までの歴史などを知り、伝えないといけないので、古典を学ぶのだと思う。
- ・昔の文化に触れ、現代に生かせることがあるかもしれないので、続けていくと思う。

【感想】

- ・違う国の文化を知ることができた。
- ・新しい発見ができて楽しかった。
- ・古典は国によってそれぞれ大きく変わるということを改めて知ることができた。
- ・ガイドブックなどではあまり見られたいところもあり、とても面白かった。
- ・ベトナムも漢字があったとは知らなかった。ベトナムに興味を持った。
- ・日本では「桃太郎」が有名だけど、ベトナムにも誰もが知っている有名な話があるんだなと思った。他の国にも有名なものがあるのかな。
- ・日本に生まれた身として、ただの教科の一つとしてではなく、文化を学ぶという意味で、これからの古典の授業を受けていきたい。
- ・得意じゃないし好きじゃないけど、大切なんだなと思った。
- ・未知の体験がたくさんあって楽しかった。
- ・外国に行きたくなくなった。
- ・途中途中、よくわからなくなった。
- ・日本のように、ひらがな・漢字・カタカナがあったり、文字が昔からあったことが珍しいことを知りました。授業の中で言っていた、これから国語の授業が減って英語が増えると、確かに日本の文化の“文字”の大切さが薄れるのは悲しいと思いました。
- ・日本で当たり前のように昔の文学作品とかが残っていて、古典を勉強できることは当たり前でないとすごく感じた。
- ・自分は今まで日本から出たことがないので、文字がない、漢字がないと言うことを体験したことがないので、すごく不思議に思いました。実際に海外に行き、いつか自分で他国の古典や日本でもやっている授業の違いを見つけてみたいなと思いました。注※教育系志望の生徒の感想。
- ・古典はあまり好きじゃなかったけれど、今回の話を聞いて、もう少し頑張ろうと思った。
- ・国や文化が違うだけで言葉の伝わり方が変わるのがすごいと思った。
- ・今まで、この世はグローバルだというような話がたくさん出ていますが、グローバルをしよう

と言っているだけで、しっかりとした意味でこれからにつなげることは考えられていなかったと思います。今回の授業で、グローバルの考え方が変わったし、自分もそういうことをしたい！！

- どうして古典を学ぶのかを考えず、いつも勉強していたので、考えるきっかけになりました。
- 古典はあまり得意ではないけど、大切な科目だと思いました。

【書写まで終えての、まとめの感想】

- 古典の勉強をしてから書道をしたので、きれいに書くこともそうですが、今まで授業をしてきた漢字の成り立ちなどを考えながら書きました。普段、スマートフォンなどで文字を簡単に打てたり、授業中に書く字も、文字をちゃんと意識して書いていなかったなので、ちゃんと筆で書くことは新鮮だったのと、改めて「書く」というのは大切だと思いました。楽しかったです。
- 古典は、中学の頃から学んでいることで、なぜ学んでいるのか深く考えたことはありませんでした（古典は、学ぶのが当たり前という感覚）。世界に目を向けると、古典は学ばれない国もあるのだと思いました（海外の方がよく学ばれていると思っていました）。
- 久しぶりに筆ペンだったが、書くことに楽しみを感じることができた。もっと書きたい。
- もっと字をまっすぐ書けたらいい書き初めになったと思いました。
- 今の時代にはない言葉の伝え方、使い方を体験して言葉にある想いが似ているようで全く違うものなのだと思った。書道は、本当の意味で文字に触れることができ、筆で漢字を書く難しさを再確認した。
- 習字は日本の文化ですが、今は結構世界にも出回っていて、世界の文化になりつつあって、書く意外にもスッキリして楽しかったです。注※日本独自の文化ではない。
- ベトナムの古典教育や文化など驚くことばかりで、各国で全然違うものなんだと実感しました。他の国はどういう教育をしているのか気になりました。
- ベトナムと日本の古典教育をした後に、自国の伝統文化としっかり向き合う機会ができて面白かったです。
- 古典は実際にその時代の人に会って話を聞いているわけでもないのに、話に入り込めそうな感じがして、短い文章でも多くのことが伝わるのだなと思いました。古典とは、今で言う「日記」や「絵本の童話」に近いのかなと思いました。
- 古典は本当に難しく、テストで思うように点が取れなかったです。来年はもっと努力していい点取れるように頑張ります。
- 書道は苦手だけど、やっているときはすごく集中できたし、一文字でも上手に書けた字があったらすごく嬉しかったです。古文の授業は楽しくて好きです。文法とか難しいことはたくさんあるけど、お話の内容は結構あほなものだったり、ためになるものだったりして、理解できたらすごくおもしろいので、理解できるようになりたいです。
- 古典の授業は、現代文の時よりも好きです。現代語訳をすることは、すごくむずかしいし大変だけど、意味がわかると楽しいです。
- はじめて、書き崩した書道をやってみて難しかったけど楽しかったです。日本は書道を通して

文字の美しさを表すことができ、大切な文化だなと思いました。

- 中国から伝わってきた言葉の意味が知れたり、書けることはいいと思いました。
- 古典をしてきて、日本はたくさん残っていると思った。
- 世界のどの国に行っても、やはり昔の漢字や文字は決して書きやすいわけではないなと、今回の書き初め大会をやって思いました。字の美しさを極めるのはやはり簡単なものではないなと思いました。
- 今回やった、書き初めのような日本文化を久しぶりに体験することができてよかった。授業以外で筆を持つことはないの、本当にいい機会だった。書き初めは左手では書けないので、右手の練習しようと思います。注※今回は、左利きの生徒は左右どちらで書いてもよいと伝えた。
- 古典は文字があったからこそ現代まで伝わっているのだなと思った。昔の人におきた出来事などは現代にないものが多く、読んだりしていてとても面白かった。書き初めは難しかった。ただ古典を学ぶだけではない授業もあったので、いろいろなことを知れてよかった。
- 古文を始めたころは、勉強しても大変なだけだったけど、古文の勉強を理解するにつれてどんどん楽しくてもっと知りたいと思うようになってよかったです。
- 小学校の時に習字を習っていたので、すごく楽しかったです。「奥の細道」はうまい人ばかりだったので、違う作品を書いてみたいと思いました。
- 同じ古典をしているのに、国が違うだけで多くの違いがあることが興味深かった。最初、古典は日本でしかやらないと思っていたので、ベトナムで古典を学んでいることを知ったときはとても驚いたし、古典の大事さを感じた。
- 字を書いたりするのは好きじゃないし、タブレットとかになったらいいなって思っていました。でも、古典をやって、字を書いて、学ぶことは、大切だと思った。でも、習字だけは好きになれないし、もう、やりたくない。
- 授業で、古典をやると難しいイメージがあり、苦手意識を持つことが多いが、日本の文化の一つとして、先人たちの知恵の一つとして、これからはなくさないように受け継いでいかないといけないと思った。
- 良いことだけど、私にとっては、とってもむずかしいハイレベルなことだなって思いました。
- 音楽や美術と同じく、そのものの良さがあるので、訳だけ学ぶのはつまらないと思う。
- 古典を持つ国と持たない国との違いを比べて、また古典の価値を見直すことができたのでよい機会になった。
- 自分は中学の時から古典が得意じゃないし好きじゃなくて、授業がつまらなかったけど、高校に入って、古典を学ぶ意味を学んだり、作品をやっていくうちに、いろいろ理解できることが多くなって、まだ得意ではないけど、前に比べたら苦手意識がなくなってきたから、この調子で2年生でもがんばっていきたい。
- 歴史を知らなくても生きていけるけど、知っていると考え方は変わってくるから、知っておいて損はないと思うし、場所、国は違っても理解できることが増えたと思った。
- 昔の人は全部筆で書いていたんだと思うと、大変そうだなって思いました。